

議会だより

2025.8.25 No.215

も く じ

- 表紙 島の漁業
- 2～3P 令和7年 第二回定例会
- 4～10P 一般質問
- 11P 東京都町村議会議員講演会
- 12P インタビュー



キンメ漁が主流

町の産業の一翼を担う漁業。漁業協同組合副組合長に町の漁業の現状を伺いました。漁協の組合員は現在96人。水揚げされた魚はほとんどが東京都漁連へ送られ、ここから複数市場に出荷されます。価格の安定につながる仕組みです。以前はカツオやトビウオが主流でしたが、今はキンメダイの価格が高値で安定しているため、キンメ漁が主流となっています。最近たまにクロマグロも仲間入り。漁獲量や鮮度管理を厳しく守りつつ、八丈の漁業を支えています。また、漁業調査指導船「たくなん」を含む東京都島しょ農林水産総合センターの情報提供や、漁師との連携で効果的な操業を行っています。イルカやクジラの食害について聞くと、意見はいろいろあるが、動物の生態を知ることでは共存は可能になるのではないかとのことでした。

後継者育成にも力を入れています。収入目的で挑戦する人より、海が好きで人が結局は定住しているようです。だからこそ、漁師の独立を促すような支援が必要だと訴えていました。町に対しては、今何より必要なのは後継者育成のための住宅とのこと。また、島の釣り場には危険な箇所があるので、スロープや階段を整備し事故が起きないように安全な釣り場を確保してほしいとの要望もありました。

(奥山幸子)



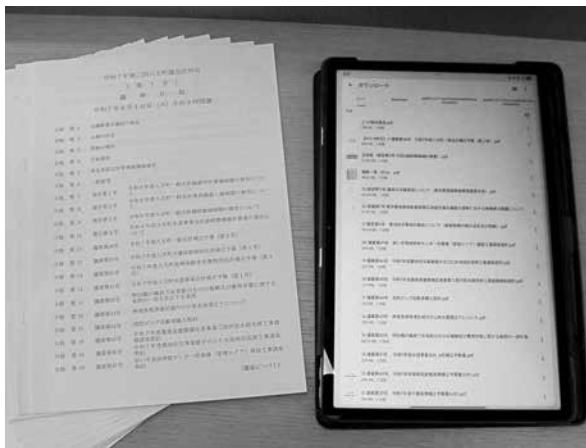
議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます

<https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

令和7年第二回定例会

議会もデジタル時代へ突入

令和7年第二回八丈町議会定例会が6月10、11日の2日間にわたり開催された。今回から紙での資料配布はなくなり、配布されたタ



一般質問は、紙で読み上げる議員やタブレットを読み上げる議員それぞれのスタイルで行われ、操作などの混乱もなかった。

ブレットや議員自身のパソコンを使用したデジタルの時代へと入り、議員の机上は様変わりした。
例月報告で、基金(※)は全て利息のつかない普通預金にしているのかとの質問に対し、町は4月より15基金の内、すぐ使用しない3つの基金9億1千万円を定期預

※基金とは

年度間の財源の不均衡の調整や、特定の目的(事業)のために積み立て、または準備しておく資金のことで、家計における「貯金」のようなもの。それぞれの基金は、条例によって設置され、基金の目的に依じて、必要な時に取り崩して使う。基金があることによって、継続的に安定して事業を進めていく予算を確保することができる。

金にしたと回答した。

行政報告では、企業管理者が複数の病院を訪問していることに關して、6月2日の町ホームページに來年度から八丈病院で分娩ができないむね掲載され、5日に経過報告が掲載されたことで、住民には発表があまりにも突然で不安が広がっている、町は住民に対してもっと丁寧な説明をすべきとの意見が出された。

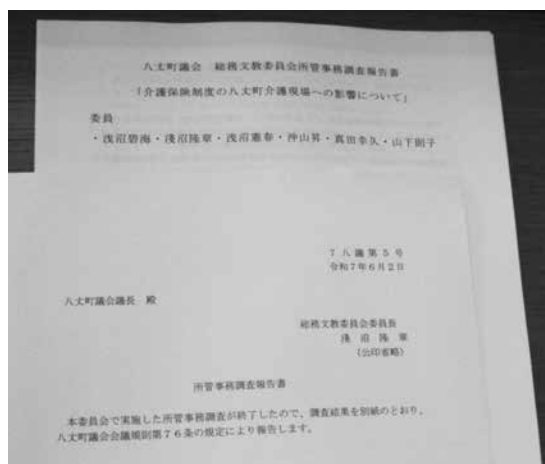
次に、「介護保険制度の八丈町介護現場への影響について」と題し、昨年より総務文教委員会に取り上げて調査した結果について、所管事務調査報告として総務文教

一般会計補正予算

物価高騰対応で7、8月の水道料無料

物価高騰対応重点支援水道料補助金として6千万円の計上があった。これは、都が推し進める予定の水道基本料金無料化はまだ詳細が発表されていないため含まれて

委員長より報告が行われたが、議会で報告されるのは初めてのことである。



おらず、7、8月水道使用料について、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金約4700万円と町負担約1300万円を使っ

都内では当たり前に受けられる放課後等デイサービス（※）が、八丈町ではこれまで実施されていなかった（保護者が八丈町在住で、お子さんが都内の学校のため、放課後等デイサービスを受けた例はある）。今春、島内に事業所が開設され、障がいのある小学生から高校生までの放課後や学校休業日の受け入れ先となったため、障害者福祉費（障害者通所給付費）576万円の計上があった。

移住定住ツアー補助金と島しょ山村地域移住支援事業補助金が一本化され、新たに移住定住促進市町村支援事業補助金となった。



今春開所された「放課後クラブいっぽ」

新事業として、産婦人科・小児科オンラインの委託、笑顔と学びの体験活動プロジェクト子供企画型補助金（三根小学生が同校開校150周年の商品開発をする）、三原小中学校で実施のデジタル活用推進地区事業委託金などがあがった。

八盛隊に6月1日から温泉担当1名が入り、今後2名増員し合計10名体制になるむねの説明があった。そのほか体育館の改修工事などの説明があり、補正後予算額は214・2万円減額の91億3285・1万円で可決された。

八丈町介護保険特別会計補正予算では、介護従事者の初任者研修について島外で受ける2週間分の半分（9万円）×10名を計上していることについて、島内で受講できるように要望があった。

※放課後等デイサービスとは

児童福祉法を根拠とする、障がいのある学齢期児童が学校の授業終了後や学校休業日に通う、生活能力向上のための訓練および社会との交流促進等の療育機能・居場所機能を備えた福祉サービス。

そのほか主な議案は左記のとおりだが、山本忠志議長が東京都町村議会議長会の会長に就任したため、発議「東京都後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙における

候補者の推薦について」は、山本議長以外の町議員全員が提出者になり、原案可決に至った。

（山下則子）

主な議決事項

5月臨時会

令和7年5月13日

◎ 専決処分事項の報告及び承認について ほか2件

◎ 八丈町監査委員の選任の同意について

◎ 令和7年度八丈町一般会計補正予算 ほか契約の変更2件

◎ 八丈町歴史民俗資料館外構工事請負契約

第二回定例会

令和7年6月10、11日

◎ 令和6年度八丈町一般会計繰越明許費繰越額の報告について ほか報告3件

◎ 令和7年度八丈町一般会計補正予算 ほか予算3件

◎ 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

◎ 神湊漁港漁港区域内の公有水面埋立について

◎ 消防ポンプ自動車購入契約 ほか3件

◎ 専決処分事項の報告及び承認について（和解）

◎ 東京都後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙における候補者の推薦について

◎ 議員の派遣承認について

主な会議事項

全員協議会

令和7年5月13日

◎ 八丈町内での周産期医療体制について

総務文教委員会

令和7年5月13日

◎ 介護保険制度の八丈町の介護現場への影響について

議会運営委員会

令和7年6月3日

◎ 第二回八丈町議会定例会について



かながわ たかゆき
金川 孝 幸 議員

町道の管理について

町道の管理は、年数回の草刈りに加え、定期的なものと大雨などの異常気象時に点検を行っていることは承知している。予算の都合もあり、都道と比べると明らかに管理は行き届いていない。道路は造るだけでなく維持することにより役割を果たす。町民から町道に関する要望が多いので質問する。

町都道から移管された町道は都道の時と比べると管理が行き届いておらず、交通安全面と、町民や観光客にも悪い印象を与えるので、一般の町道と分けた管理を行わないか。

〔答〕 建設課長 交通量や歩行者の多い区間は重点的に作業回数

を増やすなど対応する。

町 旧役場から大賀郷小学校までの移管された道路に枯れたヤシの木があるが、植え替えるのか撤去するのか町の方針は。

〔答〕 植え替える予定はない。

町 U字溝のない町道は道路を側溝代わりに利用しているが、大雨で機能しなくなっている。今後の道路新設や改修時に改善しないか。

〔答〕 道路の雨水排水処理は、道路の安全性と耐久性を確保するうえで重要である。事業特性や経済性を比較し可能な限り側溝整備を検討する。



町 視覚障がい者用の点字ブロックは島内に数カ所設置されているが、白杖を頼りに歩くのには困難であり、中途半端なので都と連携した整備方針を検討しないか。

〔答〕 八丈町の道路の利用や財政状況など勘案し検討する。

町 三根公民館横の小学校に通じる坂道に点字ブロックが設置されているが、一部は壊れており、ブロックの脇は崖で転落防止の柵は設置されていない。何らかの対応は必要と思うが。

〔答〕 現地を確認して対応したい。



旧都道の枯れたヤシの木（上）。壊れた点字ブロック（右）

町 町道の草木の伐採はシルバー人材センターや業者に委託していると思うが人材不足で手が回らないと聞いている。希望があれば地区に依頼することを検討すると聞いているが実施事例はあるか。

〔答〕 坂下地域での事例はない。坂上地区では委託契約を行ってきたが、自治会との協議では作業を行う担い手の高齢化や人手不足で継続が困難となる可能性も示唆されている。

町 先日クリーンデーのあとに私の地区では、地区の美化と地区住民のコミュニティを図る目的で自主的に草刈り伐採と交流会を行った。地区の住民が共同して作業するのは、コミュニティ活動の増進にもつながり災害時の共助にも役立つ。参加者や地区住民からは好評だったので継続したいが、草刈り機の燃料代などは個人負担なので町からの何らかの支援は考えられないか。

〔答〕 防災面などを含め何らかの支援ができないか検討する。



さなだ ゆきひさ 議員
真田 幸久

福祉関連職種の人手不足 対策について

問 保育士の処遇改善検討の進捗状況は。

答 福祉健康課長 八丈町の（公務員）保育士給与は極端に低い状況ではないと認識している。処遇改善加算には様々な要件と研修受講の必要があり、離島では対応が厳しい状況となっている。また、他の島しょ部にも確認したが実施していないとのこと。

問 12月議会では、経済的処遇が採用にあたっての課題となっているとの答弁があったが、その認識が変わったのか。住宅の対応も含めて、全体としての待遇の問題をどう考えるのか。ま

た、給与テーブルの変更や特殊勤務手当などの考えは。

答 23区の中には住宅を処遇としてみているところもあるが、そこまでは考えていない。制度変更については、総務課との相談になるが、厳しいと考えている。

問 福祉関連職種の人手不足対応の一環として、公営住宅の目的外使用を提案したいが町の考えは。

答 企画財政課長 公営住宅は入居率も低下を続けている状況から、公共施設の最適配置に向けて大きな課題として認識している。まずは適正戸数を設定し、必要数を確保した上で、移住者用住宅などの町事業を推進する上で必要な施設への活用を、その他施設とのバランスを図りながら進めて行きたい。

問 町長 移住者用住宅や、福祉関係、介護関係、またHAT関係についても、住むところがあれば来る人もいるという話もあるので、目的外使用も含めて総合的に早く対応していかなく

ればならないと考えている。

八丈町の組織運営・人事 制度について

問 直近の職員定員に対する不足数は。

答 総務課長 保健師等含め、事務職で13名の不足。

問 昨年7月の職員アンケートの総括は。トップダウンでの対応方針などはもっと早く示せるのでは。ボトムアップでなければ課題の抽出はできないが、課題が見えた段階で大枠の対応方針を示すのは、経営層に求められる資質だと考えるが。進捗状況について議会に示すべき。

答 総務課長 現在、施策案のまとめの段階にあり、これから議論を含めたスケジュールを立てていく。

問 副町長 トップダウンではなくボトムアップ重視ですすめていく。職員が事細かく課題を分類し、町長、副町長、管理職の共通認識として機構改革が必要と考えている。

問 アンケートのまとめの内容を受けて、職員の評価制度として360度評価、職員の異動に限り、関連するグループ内での限定異動やジェネラリストとして各部署間を異動するなど、職員のキャリア形成希望を踏まえた人事制度導入を提案したいが、町の考えは。

答 総務課長 国家公務員の働き方改革を検討する若手官僚のチームも提言しており、一部省庁では実施していると聞いている。今後、国や東京都などの状況を踏まえ、多面評価（360度評価）について研究したい。異動の考え方については、今後検討していきたい。

問 町長 様々な現場の中で、一般事務職では360度評価が可能ではないかと考える。異動に関しては、課内での担当替えなどできる範囲は対応したいが、人員不足の中で1人異動が生じると、関係して3、4人の異動をとれない、希望に沿うのが困難なことから、専門職について対応していきたい。



おくやま さちこ 奥山 幸子 議員

移住、定住促進策の強化を

町の人口が急速に減少し、様々な産業に影響をもたらしている。町は、定住支援金を実施し、情報を「八丈物語」に集約して発信するなど対策に力を入れていることは理解できる。また、民間では移住定住促進協議会（移住協）の相談窓口としての活動もある。ただ、それらの対策や組織がうまくかみ合っているか、それぞれの施策に不足部分はないのかを改めて検証する必要があると思う。

問 移住者はここ10年でどれくらい増加しているか。また、移住後島を離れた人はどれくらいか。

答 企画財政課長 仕事の異動を含めた転入者はここ5年間で1971人。令和2年の定住率（転入後4年を経過した後の）は66・3%となっている。ここ4年間で99人が移住している。

問 定住支援金はどれくらい利用されているか。

答 「東京都の島しょ山村地域への定住サポート事業費補助金」を活用している。採用は令和3年から7、29、35、31件となっている。

問 町の移住相談窓口の利用状況は。閲覧数がそのまま移住実績に結び付くとは思わないが、1カ月ごとに内容を変えらるか、よりアピールする工夫が必要だと思う。

答 八丈物語の閲覧数は目標1万件で、令和4年からは毎年1万件くらいある。内容の更新については検討したい。

問 ふるさと回帰支援センターと町の連携はできているのか。

答 役場に常駐している地域おこし協力隊が頻繁に連絡を取り合っている。各種イベントなども企画実行している。

問 移住者の住宅の確保をどう実現させているのか。島外の方



八丈物語
QRコード

八丈物語

ここから始める島暮らし
それはあなたの物語

島暮らしに必要な準備を八つの章で紹介。
これであなたも「島民」の仲間入り！
八丈島で自分だけの「八丈物語」を手に入れよう！

八丈物語
案内人「ロベレニくん」

やあ！ぼくはロベレニ。
八丈島への移住を考えているキミのサポートを
していくよ！よろしくね♪
それじゃあ早速、第一章から進めていこう！



を受け入れる態勢が十分でないと思う。たとえば、空き家バンクはゼロで修理改築も進んでいない状況、一方で町営住宅は所得制限があり、所得に変動があると利用料が跳ね上がるような事例も生じる。これでは、この島に定住しようとする気持ちにつながらない。移住者の定住を促す住宅を町が提供すべきだと思うが、町の考えは。

答 現状を考えると、必要な施策だと考えている。

問 町長 必要な施設と考えているが、いつどこに建てるかどのような様式にするのか今後考えていきたい。補助の仕組みもあるが、居住年数が3年と限られているので、課題もある。



あさぬま あおみ
浅沼碧海 議員

海・山・暮らし館開館に伴い、旧末吉小学校の利活用の可能性について

2025年4月2日末吉地域に「八丈島の海・山・暮らし館」が開館した。来館者に感想などを伺うと、VR・展示室共に、満足度の高い声をいただくことが多い。施設内容や値段などを踏まえると、雨の日問題の解消策にもつながり、より島民・観光の来館者が増えていくような施設になっていくと思う。

問 旧末吉小学校には校庭・体育館もあり、「海・山・暮らし館」との連携等で、活用についてはどのように考えているか。

答 企画財政課長 暮らし館に



老朽化で危険なため使用できないようロープが張られたうんてい

は、4月5月で884人（町民487人・島外397人）の方に来館いただいた。町民の来館者における15歳以下の子どもの割合が約32%と、家族で来られる傾向が多く見られる。子供の校庭利用や、末吉地域の住民からの要望もあり、活用については現在検討している。正式には「末吉運動場」「末吉屋内運動場」は、八丈町体育施設条例で、町民の体育およびレクリエーションその他社会体育の振興を図ることを目的に設置されているものとなるので、この部分の影響なども考慮し、末吉自治会とも相談しながら、進めていきたい。

答 教育課長 校庭ではなく運動場

動場。社会体育施設なので基本は使用料をいただいております。整備していくといった認識に変わりはないが、ご理解いただきたい。

問 校庭に配置されている遊具が、経年劣化により使用できない物もある。修繕などの考えはあるか。また子供たちにより来たいと思ってもらえるような、親しみやすい新たな遊具などの設置について検討してもらえないか。

答 企画財政課長 遊具については、住民に親しまれるといった部分を踏まえて、新たに設置する方向で進めていきたい。

問 観光の方に来館の理由を伺うと、「SNSで知った」と言った意見を聞くことが多い。また島内在住者も情報を得ることで、より利用しやすい場所になっている。SNSアカウントの作成・発信や、HPなどでの積極的な情報発信により、来場者数が増えると思うので検討していただけないか。

答 町ではHPによる施設紹介、SNSでの投稿、町広報誌内の連載企画「八盛隊が聞く」で取り上げるなど発信を行った。付随して町民の皆様の情報の拡散、独自のSNSなどで施設の紹介をしていただくなど、多くの情報発信があったおかげで、来館者が増えたと考えている。施設独自のアカウントなどは、現在、町HPのリニューアルに取り組んでいる関係もあり、今は考えていない。来館者や議員にも施設の充実に向けての改善点などをいただいているので、まずはそれに取り組みたい。

問 家庭科室などで飲食営業許可取得を目指すなど、将来的に他教室・暮らし館活用の展望があれば教えてほしい。

答 町の中で明確な施設の展望は考えていないが、「地域と一緒に取り組む」といった趣旨がある。展示室側については八丈島の魅力の発信を。使用されていない教室側は地域の活性化を目指し、地域住民の方と一緒に考え整備していきたい。



おきやま のぼる 議員
沖山 昇

庁舎の防火に係る調査について

この庁舎での業務は、平成25年5月から開始して12年が経過。多目的ホール「おじゃれ」を併設した白いタイルの外観と1階と2階に広々とした執務室があり、開放感のある庁舎だ。

5月6日午後11時20分ごろに、埼玉県白岡市役所本庁舎で火災があったが、他人事ではないと感じた。出火原因は「電気系統のショートによる発火の可能性が高い」と発表された。33年前の平成4年に建設された庁舎にはスプリンクラーが設置されていなかったため、焼失面積は800平方メートルとなった。

この庁舎にはスプリンクラーが付いているので、広範囲の延焼はないと考える。

☎ 執務室では冬の季節など、エアコンによる暖房運転だが、足元が寒く机の下で暖房器具を使用しているケースがある。床下の配線から延長コードで電源をとり、暖を取っていると思う。もちろん快適に業務に当たれるよう暖房器具を使用することとは決して悪い事ではない。安全安心に暖房器具を使用できるような考えをほしい。暖房器具の使用状況調査を行っているか。

☎ 建設課長 庁舎の管理は建設課管財係が担当し、防火対策も庁舎管理規則に基づき適正に実施している。

執務室内の暖房器具の使用状況調査は毎年12月に確認している。目視と職員からの聞き取りにより、設置状況については把握している。確認の結果は宿直員と情報共有し、庁舎巡回時に重点的に確認を行っている。万一、暖房器具などの電源が切られていないと確認された場合、職員及び所属長へ状況を伝え、指導と再発防止を促している。

また、冬場には全職員へ暖房器具設置に関する注意喚起と適切な管理について通知してい

る。火災リスクを十分認識し、職員一人ひとりが防火意識を持つよう促している。庁舎閉庁時は、各課において「室内取締簿」に戸締り、照明、空調、その他火気について確認し宿直室に提出している。庁舎内の火災リスクを最小限に抑えるための体制を整えている。執務室のスプリンクラーは、建設時の消防法や建築基準法に基づき設置義務の対象外で設置していない。多目的ホール「おじゃれ」には法令に従い設置されている。

今回の白岡市役所の火災事例は庁舎での火災リスクを浮き彫りにした。本庁舎も建設から年数が経過し、電気設備などの老朽化も懸念され、火災予防対策の重要性は増している。執務室へのスプリンクラー設置は、建物構造や財政面からも容易ではない。まずは火気管理の徹底、電気設備の点検・更新、初期消火体制の強化、消防本部との連携による避難訓練の実施など、ソフト・ハード両面からの火災予防を強化する。

今後は、庁舎の防火管理を徹底するため、暖房器具の使用状

況の確認方法について、記録方法や周知、届出の追加など検討する。職員一人ひとりの防火意識向上にも努め、安全で安心な庁舎環境の維持に万全を期す。

☎ 床下に配線している延長コードの容量は1500ワット。電気ストーブ800ワットを2台使用したら容量を超え、発熱により出火する可能性がある。延長コードの使用期限が、5〜10年と言われている。床下の延長コードの点検をしないか。

☎ 使用期限についても認識しているので、交換など検討する。

☎ 是非、冬になる前には調べてほしい。万一、火災が起こった場合、数日間業務が停止し、重要な書類などが焼失してしまうことにもなりかねない。庁舎に係る危機管理として、また防災の拠点である庁舎が火災により機能が果たせなくなることから、早く調査を実施すべきと考えられるが実施できるか。

☎ 毎年12月に調査を実施しているが、早めて実施したい。



いわさき ゆみ
岩崎 由美 議員

自然保全施策についてどのように検討されているか

八丈町では「基本構想の中で自然環境特性を保全・活用をし、エコツーリズムの観点を含め、自然公園の魅力向上を図る」とある。施策を作る上で新しい用語を使う場合、理念や考え方を共有することが大切。

問 八丈町が考えるエコツーリズムとは何か。

答 企画財政課長 基本構想の中では「地域の自然環境や歴史文化を体験し学ぶとともに、それら保全に責任を持つ観光の在り方のこと」とある。「地域に存在する素晴らしい資源、自

然、歴史、産業、暮らしを守り、それを地域の宝として活用しながら、地域経済にも貢献していく取り組み」である。

問 町が考える保全とは何か。

答 エコツーリズムの中にある通り、活用を考えていくことが保全の推進につながると考えている。

問 自然資源や文化資源の保全はしっかりとした取り組みをしていかなければならない。自然を保全することが、経済活動にマイナスの影響を及ぼすと考えるか。

答 そのような考えはない。

問 資源となる自然や文化が抱える課題、問題点をどのように把握しているか。

答 現状として町には自然環境の保全にあたる専門部署がないため細かく把握しているわけではない。

問 外来種問題や、希少種の盗掘などについてはどう考える

か。

答 外来種について一部調査はしているが、全体的には行っていない。

問 そのような問題を解決するために今後どのような施策が必要か。

答 自然保全施策については今まさに進めているところ。エコツーリズムの考え方の根底には保全がある。エコツーリズム推進拠点として海・山・くらし館を整備した。企画段階だが次のステップとして官民学で連携してエコツーリズム推進協議会を立ち上げたい。まずは準備委員会の設置。この協議会を八丈島のエコツーリズムの基盤とし、自然保全の方向性を決めていく機関としたい。

問 町には保全に関わる部署がない。これについて町長はどのようにお考えか。

答 町長 必要性は感じている。自然公園に関わるものも複数の課にまたがる。町の重要課題として縦割りからの組織改革

が必要。

問 自然に関連する法律関係は多岐にわたる。八丈島ならではの自然保全するための条例の制定を行うための体制を整えて頂きたいと考えるがいかがか。おそらく企画財政課が中心になると思うが、外来種問題に対応してきた住民課などにも関わっていただきたい。

答 企画財政課長 縦割りの考え方を変えて横断的な取り組みを行いたい。条例については専門的な人員を配置することは難しいので民間の力を借りて協議会で考えていきたい。



やましたのりこ 議員
山下 則子

ゴミの散乱を防ぎ観光地として相応しい八丈町へ

燃やせるゴミの日に車で走っていると、ゴミ集積場がカラスに荒らされゴミが散乱している光景をよく見かける。また、住民の方がたからも「何とかしてほしい」とのお声を伺った。そして、観光地としてもこの光景は恥ずかしい限りである。

そこで要望だが、可能な集積場にはゴミボックスの設置をお願いしたい。

また、町が「広報はちじょう」などで住民に周知しているのは承知しているが、カラスに荒らされないための、もっと分かりやすく見やすい工夫も必要

ではないか。

さらに集積場には多言語のゴミの出し方の看板を設置してはいかがかと考えるが、町の考えを伺う。

町住民課長 町内527カ所のゴミ集積所のうち、カラスや野良ねこなどの小動物によりゴミが荒らされることがある。注意の集積所は、収集委託者からの報告では16カ所ほどある。注意の集積所の傾向として、一



荒らされたゴミの集積場(右)。ハングル文字で書かれた看板(下)

概には言えないが「ゴミ出しの時間や曜日が守られていない」「利用世帯が多くゴミも多い」「大通り沿いで他地区の住民がゴミを捨てていく」などの問題点が見られ、改善指導により一時的に良くなっても、しばらくすると元に戻ってしまうことが多い。

今後の集積所対策としては、まずこの16カ所の注意集積所の改善に重点的に取り組む。東京都環境局の市町村向け補助事業メニューの中に、自治体がゴミ集積所に設置するための折り畳み式ゲージなどの購入ができる事業があるが、これは1回限り一度きりの事業なの

で、どのように使うのが効果的か、ゴミ処理問題協議会などで検討していく。

カラスにゴミを荒らされない対策としては、ネットの周りに石などの重しを置くことで被害を防止できるので、このような対応を呼びかける表示にも力を入れる。

また、ゴミを覆いやすいように現在配布しているカラスネットの倍の大きなサイズのネットも導入する準備をしている。ネットの交換やカラス対策の方法を含め、わかりやすく周知していきたい。

多言語のゴミ出し看板については、実際にハングル文字の看板を設置している集積所があり、町のHPでも令和2年度からゴミ分別区分表の英語バージョンを公開している。「この集積所にこの言語の看板を設置してほしい」と相談されれば、可能な限り対応する。



「議会と住民の距離を縮めよう」

～なり手不足から主権者教育まで～

講師 拓殖大学政経学部 河村和徳教授



河村先生は、地方議会と住民との距離を縮める研究や提言を行っており、「議員のなり手不足の話から議員報酬の話題」、「議会のデジタル化からSNSと選挙・主権者教育」という2つの大きなトピックを語られた。

住民の声を広く聞くには、デジタルとアナログの活用が必要であ

り、デジタル技術を議会活動で活用して住民の参画を促し、議会や議員と有権者との距離を縮め、住民の政治参加の意識を高めることが主権者教育へと結びつけることが大事である。議会や議員の活動などが住民との距離を縮め、住民とのコミュニケーションが取りやすい環境を造ることも必要である。

地方議員に関する誤解について、「地方議員の定数を減らすべき」という政治学者がいる」については、議会は住民の縮図であることから本来は直接参加、それが難しいので代表を選んでいるのである、少なくとも民主主義を研究している政治学者は、議員の数はで

きる限り減らすべきとは考えていない。「地方議員の報酬は多すぎる」については、都道府県や政令指定都市の報酬が高すぎるという批判はあるが、町村はあてはまらない。町村議員の報酬増に反対する人は一定数いるが、反対する人は高齢者が中心で、また、議員との関係を持つていない人も反対する傾向がある。ヒアリングからは、「いまいる議員はだらしないから上げる必要はない」、「町内会長はただなのに、議員は給料をもらっている」といった意見が見受けられる。「地方議員には年金がある」については、制度として廃止されている。

地方議員のなり手不足の問題については、議会と地域住民との距離が問題であり、議会の活動を拡大し、住民に理解してもらうことが重要。議員の質の向上が議員報

酬の正当化につながる。議会改革は柔軟な対応を継続的に言い、住民の期待に応えることが重要である。

今回の講演会を聴講し、議員としての意識や知識の向上が今後不可欠と考えさせられた。

(浅沼憲春)



発行人 八丈町議会議長 山本忠志

編集 議会だより編集委員会

委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子

委員 真田幸久 浅沼碧海

〒100-1498

東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437

メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

6月に、二回にわたって町立八丈病院での分娩終了のお知らせが行われました。二回目の内容にある通り、産婦人科医や助産師の確保について数年前から取り組んでいたものの、医療現場での働き方改革や産婦人科医不足等々、八丈町に限ったことではない背景もあり、分娩終了を選択せざるをえなかったと考えます。

一方で、町民にお知らせするタイミング、内容など、町民への情報発信には課題が残りました。今後は、島外医療機関での分娩にあたってどれだけの環境整備が行えるか、行おうとしているのか、早め早めの丁寧な情報発信が必要と考えます。

(真田幸久)

思い描く漁師像、八丈島でキンメ漁を！

「美和丸」船主 こいずみ かずひこ 小泉 和彦さん (47 歳)

横浜出身の小泉さんは、大学卒業後サラリーマンとして5年務めた後、漁師になりたいと考え、静岡県焼津市の漁業高等学園の漁業就業支援コースを受講します。

そこでは漁師に必要な免許の取得や、ロープワーク等を学びました。その後、進路の紹介でキンメダイ漁が目にとまり、下田から八丈島へ漁に来ていることを知ったそうです。そこで「八丈島」という場所に興味を持ち、将来設計を描く上で、静岡から何日も漁に出て家を空けるのではなく、日々帰宅できるようなやり方で漁を行いたいと考え、29歳の時に、島への移住を決めました。

八丈島では組合に連絡後、船主さんを紹介してもらい、乗り子として船に乗ることに。お世話になり、良くしてもらいながら、漁を学びました。転機は8年後、1隻船が空いたことをきっかけに、先輩たちから背中を押され、独立を決めます。

船の名は「美和丸」。独立後は不安だらけでしたが、先輩たちに必死についていき、サポートも受けながら、徐々に自分なりの船での考え方がついてきたそうです。

「大変で不安定な仕事ではあるが、辞めたいという気持ちにはなったことはない。歩合な分、たくさん釣れた時などは達成感がある。サ



ラリーマンよりは自分に合っている」と小泉さんは語ります。

八丈島での暮らしは、便利な環境で、車を出せば用事はすぐに済むが、子供の遊び場所が少ないと感じているそうです。

「組合の職員が不足しているため、後継者・担い手が増えていってくれたら」と八丈島の主要産業の一つである漁業の課題もお話しいていただきました。

(浅沼碧海)